

平成23年9月26日

保護者 様

仙台市立吉成小学校  
校長 菊 地 博

### 仙台市標準学力検査の結果（概要）について

#### 1 仙台市標準学力検査について

仙台市標準学力検査は、以下の2点を目標とし、小学校3年～中学3年生を対象に、全市一斉に実施しているものです。今年度の実施教科は、国語と算数の2教科です。問題の内容は、前学年での学習内容となっています。

- (1) 「期待正答率」及び「市の状況」との関係において、本校における学力向上の取組の成果と課題を分析し、今後の学習指導の工夫・改善に生かす。
- (2) 児童一人一人の学力の定着状況を把握し、今後の指導に生かすとともに、きめ細やかな指導の充実を図る。

#### 2 本校における検査結果の概要について

本校における検査結果（学年別正答率）は、図1のとおりです。

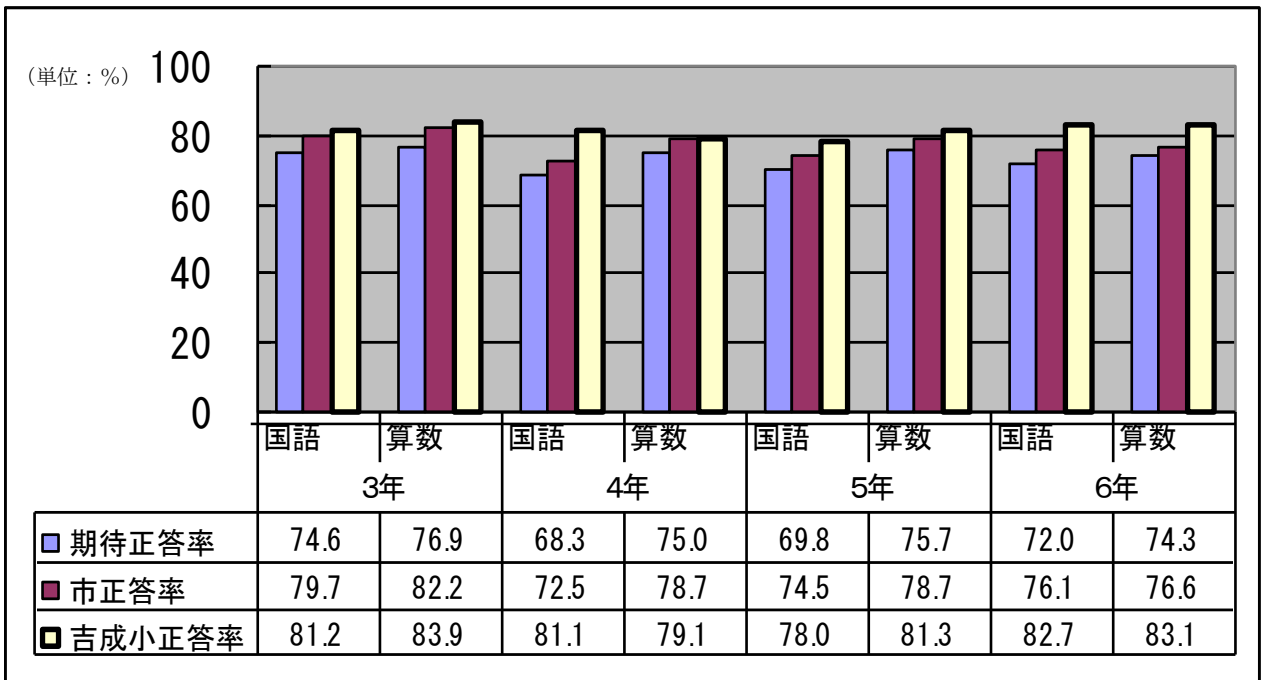


図1 標準学力検査の期待正答率，仙台市全体での正答率，吉成小学校での学年別正答率の比較

全学年全教科で、「期待正答率」「市全体の正答率」を上回る結果となっています。国語では、どの学年も期待正答率を5ポイント以上上回っています。特に、4年、6年の国語では、期待正答率を10ポイント以上も上回っています。

算数においても、ほとんどの学年で期待正答率を5ポイント以上上回っています。どの学年においても、学習内容の定着状況は良好であると言えます。

### 3 国語科・問題別の正答率について

#### (1) 第3学年の正答率

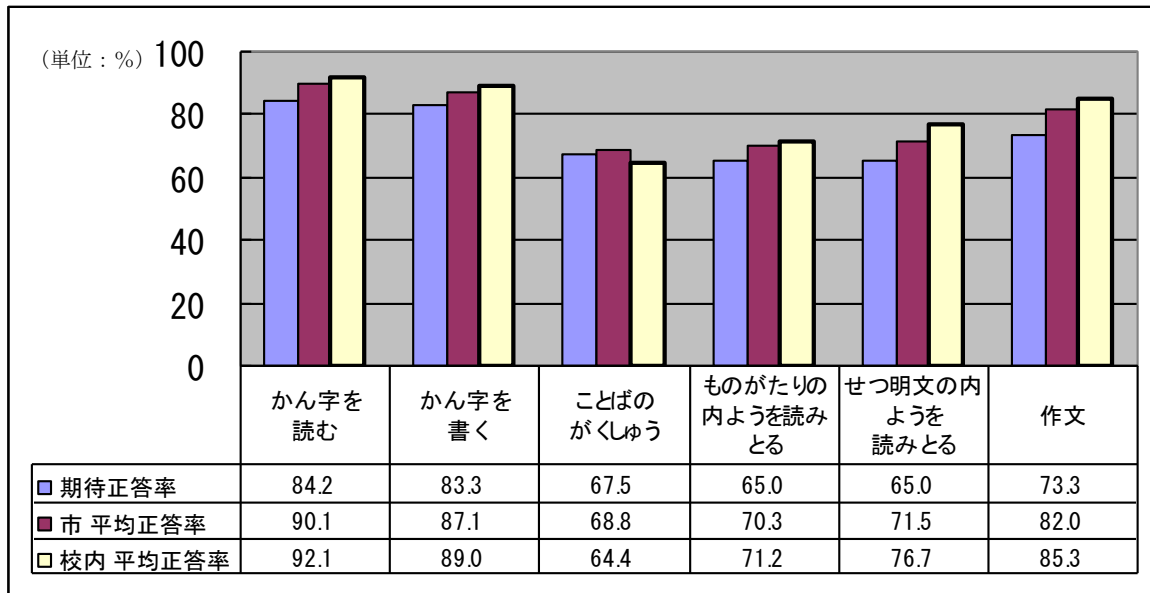


図2 第3学年国語の問題別正答率

「ことばのがくしゅう」を除いて、期待正答率を5ポイント以上上回っています。特に、「せつ明文の内ようを読み取る」「作文」は、期待正答率を10ポイント以上上回っています。

「ことばのがくしゅう」は、期待正答率を3.1ポイント下回りました。文の構成（主語・述語）についての理解を確実にすることが課題となります。

#### (2) 第4学年の正答率

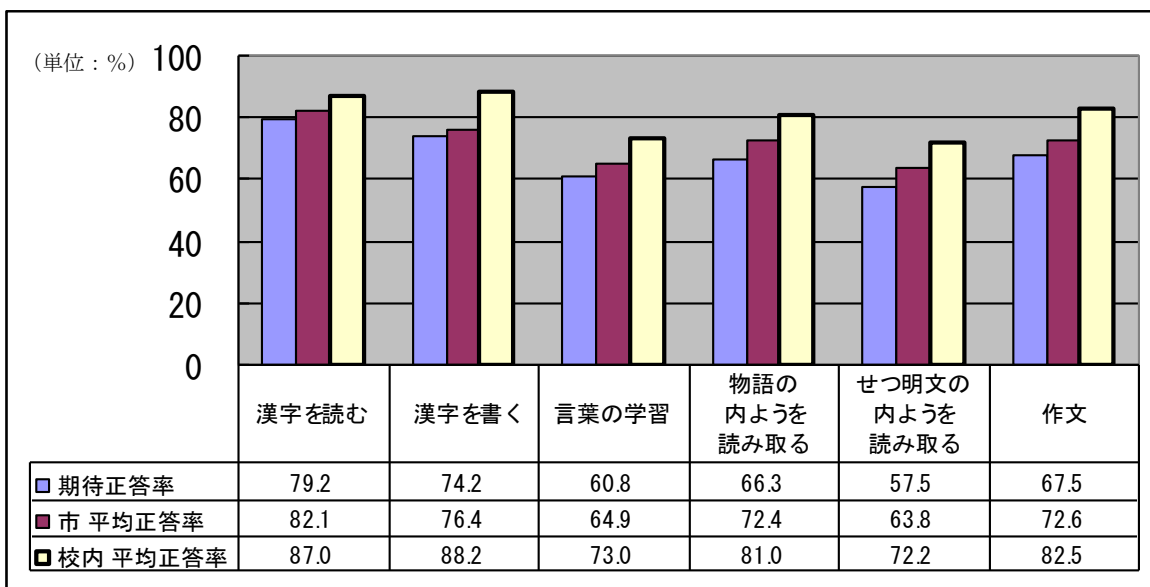


図3 第4学年国語の問題別正答率

ほとんどの問題で期待正答率を10ポイント以上上回っています。どの領域の問題についても、定着状況はとても良好であるといえます。

(3) 第5学年の正答率

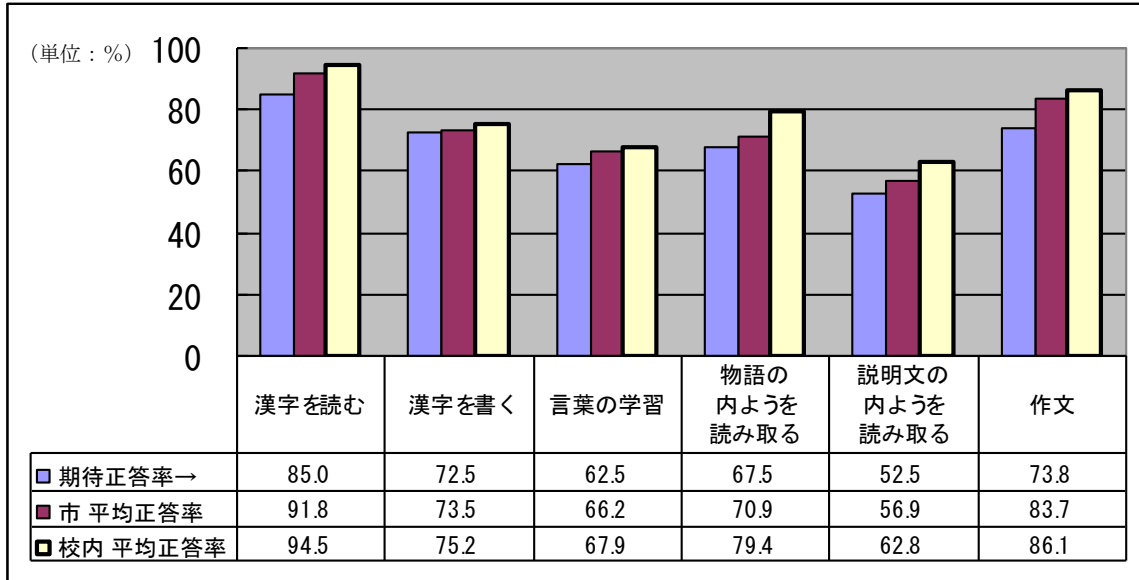


図4 第5学年国語の問題別正答率

どの問題領域でも期待正答率を上回り、「物語や説明文の読み取り」「作文」では、期待正答率を10ポイント以上上回っています。

ただし、個別の問題で見ていくと、「第4学年での配当漢字」の一部、「修飾語」についての理解、「目的に応じて、細かい点に注意して文章を読み、まとめる」ことについて、校内正答率が期待正答率を下回る問題がありました。

(4) 第6学年の正答率の正答率

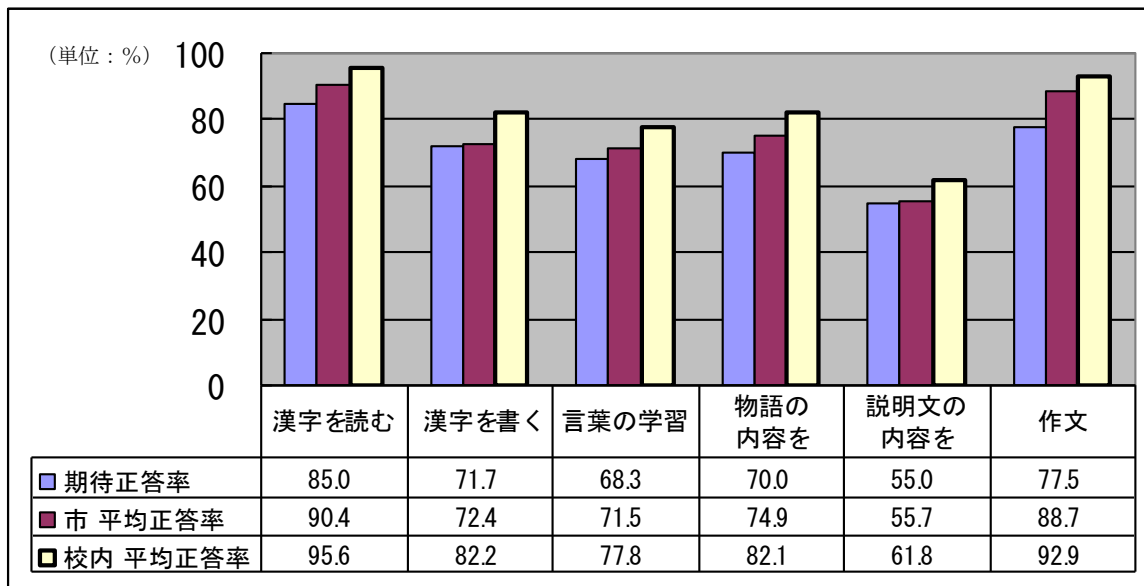


図5 第6学年国語の問題別正答率

ほとんどの問題で期待正答率を10ポイント以上上回っています。どの領域の問題についても、定着状況はとて良好であるといえます。

#### 4 算数科・問題別の正答率について

##### (1) 第3学年の正答率

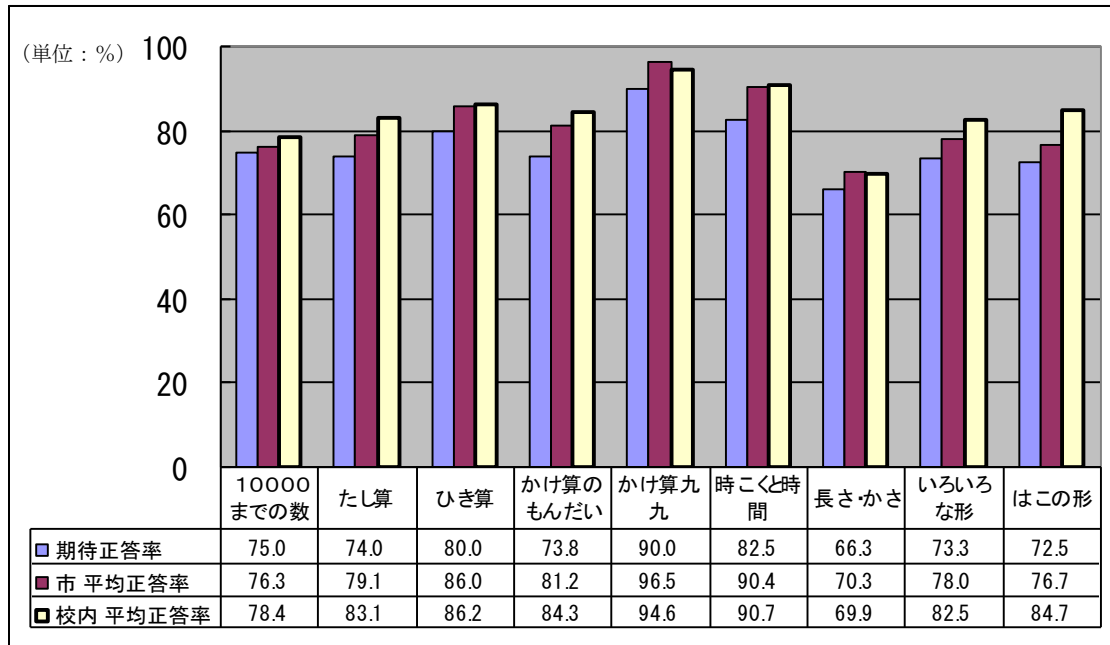


図6 第3学年算数の問題別正答率

どの問題領域でも期待正答率を上回り、「かけ算のもんだい」「はこの形」では、10ポイント以上上回っています。

ただし、個別の問題で見えていくと、「位取り記数法」や「数の相対的な大きさ」の理解、「かさを表す適切な単位」の選択について、校内正答率が期待正答率を下回る問題がありました。

##### (2) 第4学年の正答率

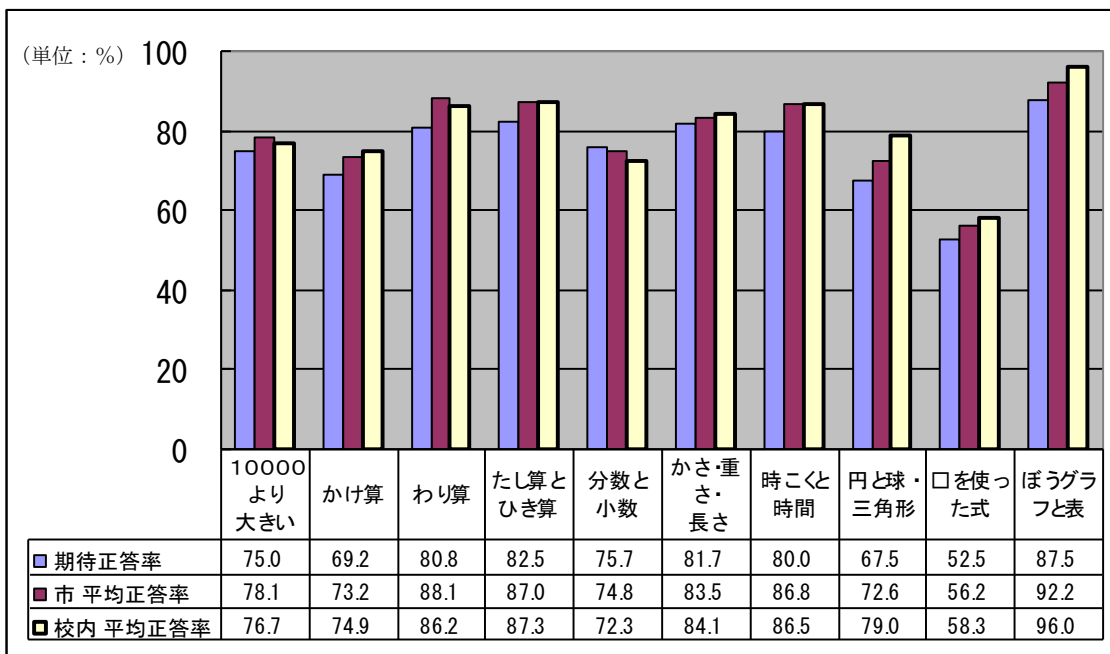


図7 第4学年国語の問題別正答率

ほとんどの問題で、期待正答率を上回り、「円と球・三角形」の問題では、期待正答率を10ポイント以上上回っています。

ただし、「分数と小数」では、期待正答率を3.1ポイント下回っており、「分数の加法・減法」の計算を確実にすることが課題となります。

また、個々の問題で見ると、「数の相対的な大きさ」の理解、「分数を大きい順に並べる」ことについて、校内正答率が期待正答率を下回る問題がありました。

### (3) 第5学年の正答率

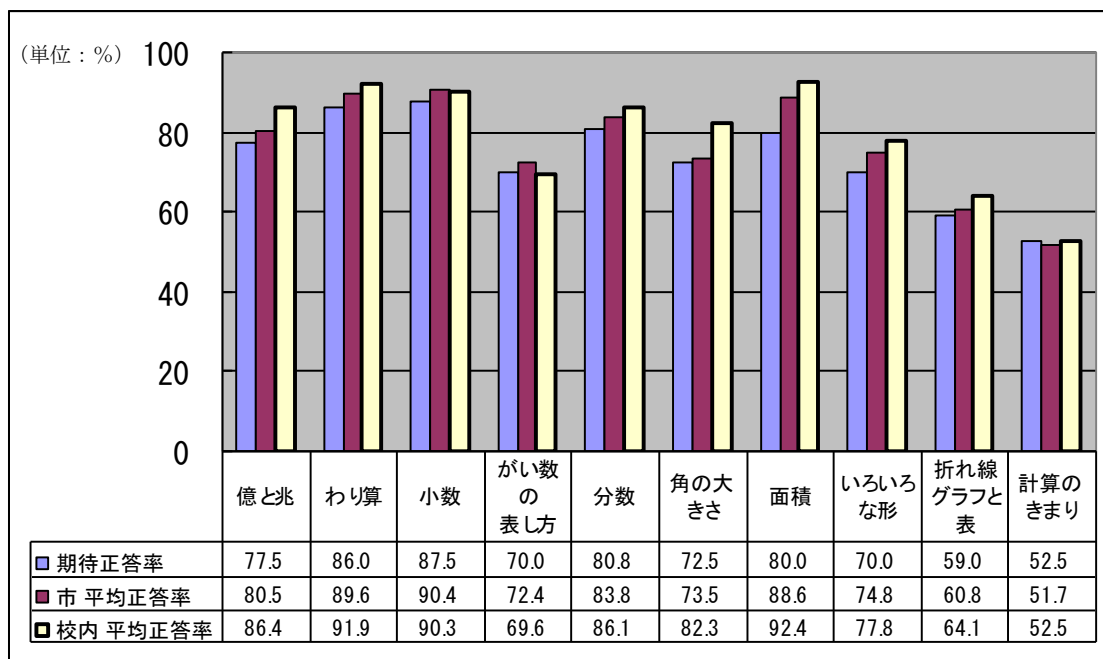


図8 第5学年国語の問題別正答率

「がい数の表し方」が期待正答率と同程度となっているほかは、期待正答率を上回っており、「面積」の問題では、期待正答率を10ポイント以上上回っています。

ただし、問題別に見ると、「二次元表を利用して問題を解く」ことについて、校内正答率が期待正答率を下回る問題がありました。

### (4) 第6学年の正答率

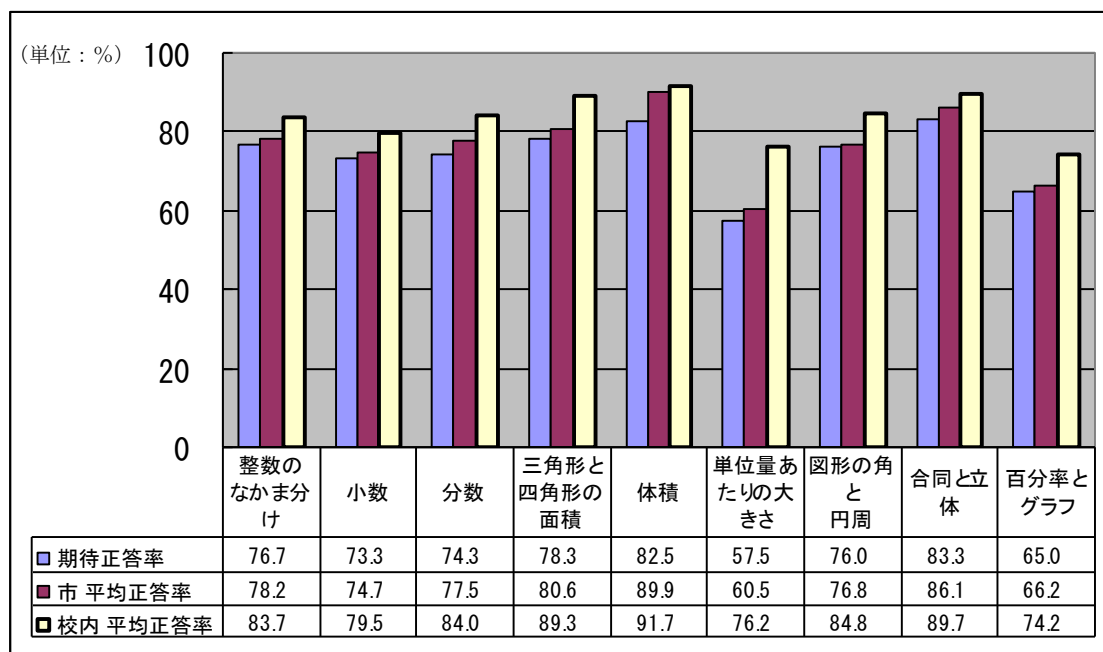


図9 第6学年国語の問題別正答率

ほとんどの問題で、期待正答率を上回り、「三角形と四角形の面積」「単位量あたりの大きさ」の問題では、期待正答率を10ポイント以上上回っています定着状況は良好であるといえます。

## 5 標準学力検査の結果を踏まえた今後の取組について

今回の結果から、本校児童の学力の定着状況は、おおむね良好であることが分かりました。ただし、この結果は、「標準学力検査」という一つの尺度で見たときの結果であり、本校が目指している「広い意味での学力＝確かな学力」の全てについての結果を得たわけではありません。

期待正答率よりも高いから「十分である」とは考えずに、「分かる・魅力ある授業づくり」を一層進めるため、指導方法の工夫・改善を図っていきます。具体的には、以下のことについて、力を入れて取り組んでいきます。

### ● 「学び合う子どもの育成」をめざして校内研究の充実を図ります。

教科学習の定着状況が良好なことから、ペーパーテストでは測定しにくい「考える力」や「コミュニケーション活動」とおとした「表現」や「交流」など、一段質の高い学びを目指します。このような「学び合う子ども」を育てる授業のあり方について教師自身も学び合い、授業力を高めることができるよう努めていきます。

### ● 個に応じた指導の充実を図ります。

学習面での課題は一人一人異なることから、今後一層、個に応じた指導の充実を図ります。今回の学力テストの結果も生かしながら、一人一人の学習状況を的確に把握し、きめ細やかな指導ができるよう努めていきます。

特に、校内正答率が期待正答率を下回った問題については、意図的に授業の中で復習の機会を設け、確実に定着するように指導していきます。

また、5、6年については、算数科における少人数指導について、指導形態や指導方法に工夫を加え、今後も充実を図っていきます。

### ● 「総合的な学習の時間」「自分づくり教育」との関連を強化します。

教科学習で身に付けた学力を、総合的、実践的に様々な分野で生かすことができるように、教科学習の内容と「総合的な学習の時間」「自分づくり教育」の指導内容を意図的・計画的に関連させていきます。

特に、外部機関との連携を進め、様々な人との出会い、現実の社会での動きなどに応じた実践の場を確保するなど、指導方法の工夫・改善を図っていきます。